

岩の力学国内シンポジウム講演論文集の 和文原稿テンプレート

岩盤 太郎^{1*}・進歩 大輔¹・亀裂 花子²・Jimmy PAGE³

¹岩力建設株式会社 技術開発部 (〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目無番地)

²岩盤大学大学院 工学研究科建設工学専攻 (〒160-0004 東京都新宿区三矢六丁目13-5)

³Hard Rock Corp. (1600 Pennsylvania Avenue NW, Washington, DC 20500)

*E-mail: rock_taro@jsce.co.jp

このファイルは岩の力学国内シンポジウム講演論文集の講演原稿(和文)を作成するために必要な、レイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。このファイルの中の文章や図表をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。

文末の英文要旨を含めた原稿全体として、4~6ページとなるように作成して下さい。

この和文要旨を含め、タイトル部分の幅は本文よりも左右10 mmずつ狭くします。和文要旨のフォントは、日本語は明朝体9 pt, 英数字はTimes9 ptを用いてください。和文要旨の長さは10行以内です。要旨の後に1行空けて、キーワードを5つ程度、Times-Italic 10ptのフォントで書いて下さい。

Key Words : *times italic 10pt font for key words, almost 5 key words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line*

1. タイトルページ

タイトルページは2つの部分で構成されます。

(a) タイトル部分: 横1段組(題目, 著者, 所属, 連絡先住所, E-mailアドレス(連絡先著者のE-mailアドレスのみ), 要旨, キーワード)

(b) 本文部分: 横2段組, 文字数は25文字, 行数は48行とします。(英文原稿の場合は56行)

(1) タイトル部分のレイアウトとフォント

全てのページのマージンはこのサンプルにありますように上辺19 mm, 下辺24 mm, 左右ともに20 mmに設定してください。タイトル部分の左右のマージンは、本文の左右のマージンよりもそれぞれ10 mmずつ大きくとって下さい。すなわち、A4用紙の幅に対して左右それぞれ30 mmずつのマージンをとります。そして以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

(1行 (12pt) の空行)

・タイトル: ゴシック体20pt, センタリング

(2行 (12pt) の空行)

・著者名: 明朝体/Times 12pt, センタリング

(1行 (12pt) の空行)

・著者所属: 明朝体/Times 9pt, センタリング

・E-mailアドレス: Times 9pt, センタリング

(1行 (12pt) の空行)

・要旨: 明朝体/Times 9pt, 10行以内

(1行 (12pt) の空行)

・キーワード: Times-Italic, 10pt, 5つ程度, 2行以内

(4行 (12pt) の空行)

著者と所属とは肩付き数字で対応づけ、上記のように並べて下さい。また、著者のうち、連絡先著者となる方の名前の右肩には「*」を付し、そのE-mailアドレスを上記の見本のように「*」の後に記載してください。限られた紙面ですので、肩書きや学位の記載は省略いただき、所属はできるだけ取りまとめてください。

'Key Words' という文字はボールドイタリック体にします。また、各キーワードは固有名詞を除いて小文字で始めてください。

(2) 本文部分のレイアウトとフォント

キーワードの後に4行 (12pt) 空けて、本文を開始してください。

本文は2段組で、左右のマージンは20 mm ずつ、段と

段と間のスペースは約 6 mm とします。文字数は25文字、行数は48行とします。

本文のフォントは、日本語は明朝体、英数字は Times/Symbol とし、文字の大きさは10 pt を用いてください。

日本語フォントにおけるギリシャ文字 (σ δ ε 等) の使用は可能ですが、機種/フォントに依存する特殊文字 (○付数字、ローマ数字、全角 1 文字に変換した単位等)、半角カタカナおよび HG 系のフォントは文字化けの原因となるので使用しないでください。

文字色は黒を用いてください。図・表・写真等については色の制約は設けませんが、白黒モニター/プリンタに出力した際に問題が生じないように配慮してください。

和文原稿の場合でもカンマ「,」とピリオド「.」を用いてください。句読点「、」「。」を用いないこと。

カンマ「,」やピリオド「.」あるいは文献番号³⁾などが行頭にこないようにすること。また、左括弧が行末にこないようにすること。

また、原稿にはページ番号は記載しないでください。

2. 一般ページ

第2ページ以降はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します。

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか、もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

専門用語は、JISに基づき正しく用いて下さい。以下によくある間違いを例示します。

- ・誤「一軸圧縮強度」⇒正「一軸圧縮強さ」
- ・誤「破壊基準」⇒正「破壊規準」

3. 見出し (見出しが1行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す)

(1) 見出しのレベル

見出しのレベルは章、節、項の3段階までとします。章の見出しはゴシック体とし、2. などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下にスペースを空けます。このファイルのサンプルから分かるように、上を2行、下を1行程度空けて下さい。ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最上部に来るよう調整して下さい。

(2) 節の見出し

節の見出しもゴシック体で、(4) などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

a) 項の見出し

項の見出しもゴシック体で、片括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。項より下位の見出しは用いないで下さい。

4. 数式および数学記号と単位

(1) 数式および数学記号

数式や数学記号は次の式

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z \, dz \quad (2)$$

のように本文と独立している場合でも、 C_D 、 $\alpha(z)$ のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式や数学記号の品質が悪いと原稿として受け付けません。

数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。数式と式番号との間にリーダーを付けしないでください。

式や図に使われる文字、記号、単位記号などは、できるだけ常識的な記号を使い、必要に応じて記号の一覧表を付録としてつけてください。数式はできるだけ簡単な形でまとめて、式の展開や誘導の部分を少なくして文章で補ってください。式を書く場合には、記号が最初に現われる箇所に記号の定義を文章で表現して使用してください。また、同一記号を2つ以上の意味で使うことは避けてください。

本文中の式番号は、式(1)、式(2)のように表記してください。

数字および記号 (特に上付、下付のあるもの) は2行にわたらないようにすること。

(2) 単位

単位は原則としてSI単位を使用すること。従来単位系を用いる場合は、括弧書きで併記してください。

例: 9.8 kN/m³ (1 tf/m³)、0.49 MPa (5 kgf/cm²)

単位の字体には「立体」を用い、「斜体」や「イタリック」を用いないでください。

5. 図・表・写真

(1) 図・表・写真の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。また、図表はそれぞれのページの上部または下部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は、

「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1 や図-2 のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を1段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図表と文章本体との間には1～2行程度の空白を空けて区別を明確にします。

(2) 図・表・写真中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください。特にキャプションの大きさ (9pt) より小さくならないようにして下さい。

長いキャプションは表-1のようにインデントして折り返します。

「図-1」, 「表-2」, 「写真-3」はゴシック体で表示し、ハイフンもしくはマイナスで結ぶこと。

6. 参考文献の引用とリスト

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所でのように上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしないでください。

本文中の引用は¹⁾ではなく、このように¹⁾としてください。

本文中で引用は、3名以上の場合に限り、第一著者のみを書き、あとを“ほか”もしくは“et al.”などと省略してかまいません。

参考文献は、原稿登載後に時間が経過してもたどれるものだけを挙げてください。すなわち、インターネット上のホームページアドレスや私信などを参考にした場合は、本文末の参考文献に挙げずに本文中または脚注で示してください。

参考文献リストの書き方は、論文の場合は著者名、論文名、雑誌名(書名)、巻号、ページ、発行年の順に記入してください。発行年については、西暦を使用してください。英文雑誌の場合は、姓、イニシャルとしてください。著者数が多い場合でも参考文献リストには全ての著者名を記載してください。単行本の場合は、著者名、書名、ページ、発行所、発行年とします。英文の単行本の場合は、書名は各単語とも頭文字は大文字としてください。英文の雑誌名、書名はイタリック体とします。

和文の場合も参考文献リスト中の人名はカンマでつないでください。

良い例: 「高橋茂, 木村直樹: 地盤の……………」

悪い例: 「高橋茂・木村直樹: 地盤の……………」

参考文献リストの一つの項目が2行以上にわたるとき、2行目以降はインデント(頭下げ)してください。

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

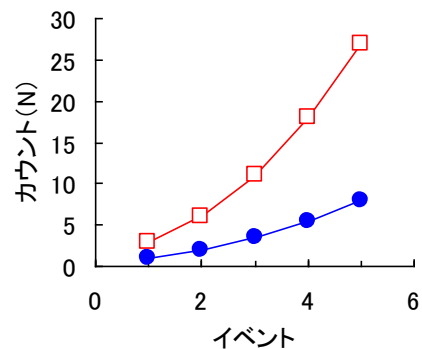


図-2 図のキャプションは図の下に置く

7. 最終ページのレイアウトと英文要旨

(1) 最終ページのレイアウト

最終ページには英文のタイトル、著者名および要旨を横1段組で書きます。このサンプルにあるように、本文や参考文献リストまでの2段組部分の左右の柱の高さをほぼ同じにし、10 mm 程度の空白を入れて英文要旨を配置します。

(2) 英文要旨部分

最終ページに15行以内の英文要旨をつけます。タイトル部分と同様に、本文よりも左右のマージンを10 mm ずつ広くとり、横1段組で、次の項目を書いてください。

・英文タイトル: Times 12 pt, センタリング (タイトルはすべて大文字)

1行の空行 (12pt)

・英語著者名: Times 12 pt, センタリング (名は頭文字のみ大文字, 姓はすべて大文字。)

1行の空行 (12pt)

・英文要旨: Times 10 pt, 15行以内

英文タイトルはすべて大文字としてください。また英語著者名は、名前は頭文字のみ大文字で姓は全て大文字としてください。

英文要旨は、国外への成果の発信の面で重要であるので、研究の成果がその内容に十分反映されるようにし、また英文についても英語を母国語とする人の校閲を受けるなどの配慮を行ってください。

謝辞：「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンをゴシック体で書き、その直後から文章を書き出して下さい。

付録 「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置くこと。

参考文献

- 1) 山田靖紀, 辻田満, 脇田和試 : 山岳トンネルおよび周辺岩盤の地震時挙動, 土木学会論文集, No.374/I-6, pp.249-259, 1986.
- 2) Barton, N., Bandis, S. and Bakhtar, K. : Strength, deformation and conductivity coupling of rock joints. *Int. J. Rock Mech. & Min. Sci. & Geomech. Abstr.* 22(3), pp. 121-140, 1985.
- 3) 都城秋穂, 久城育夫 : 岩石学 II, 岩石の性質と分類, 共立全書 205, p.171, 共立出版, 1975.
- 4) 国立天文台編 : 理科年表, pp.726-764, 丸善, 1993.
- 5) Franklin, J.A. and Dusseault, M.B. : *Rock Engineering*, p.296, Mc Graw Hill, 1989.
- 6) Smith, W. : Cellular phone positioning and travel times estimates, *Proc. of 8th ITS World Congress*, CD-ROM, 2000.

PRINT SAMPLE FOR JAPANESE MANUSCRIPT FOR PROCEEDINGS OF THE JAPAN SYMPOSIUM ON ROCK MECHANICS

Taro GAMBAN, Daisuke SIMPO, Hanako KIRETSU and Jimmy PAGE

The present file has been made as a print sample of the manuscripts for Proceedings of the Japan Symposium on Rock Mechanics. Its text describes instructions to prepare the manuscripts: the layout; the font styles and sizes; and others. If you replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE procedures, you can easily make your own manuscripts.

This English ABSTRACT has narrower width than the main text by 10 mm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font used here is Times-Roman 10pt. The length should be within 15 lines. It is preceded by the title and the authors; both are centered and the font size is 12pt.